



NPO法人
原発ゼロ市民共同 **かわさき発電所 ニュースレター**

でん太通信

den ta tu ~ sin

●発行 2016.8.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■「日本と原発 4 年後」上映会 報告■

2014年に作られた「日本と原発 私たちは原発で幸せですか？」の改訂版、「日本と原発 4年後」が2015年におなじ弁護士・河合弘之さんの監督により制作されました。改訂版ですから前の版にえがかれた部分も含まれていますが、描写が簡潔になっています。

例えば大地震の3月11日、浪江町請戸地区、津波に巻き込まれた家や車の中に押し込められた人を救助に向かった消防団は、物をたたく音やクラクションを聞いた。メンバーは「明日一番に道具持ってくっから、がんばれよ」と、声をかけて引き上げた。翌12日の朝、福島原発が事故を予測して、10km圏内の請戸の人に全員避難の命令が下った。このため消防団は約束した救助に行けず、「何人かは確実に助かっているはずなんです、申し訳なくて・・・」と話す。

またある農家の婦人は、「長年かけて山に行って落ち葉を集めて田んぼに入れ、田んぼで牛を飼ってくそさせて土を作ってきた。その土の一番いいところを、ご先祖の汗の結晶を剥いでフレコンパックに詰めて積んである。田んぼを見るたびに涙が出るよ」と、悔しそうに語る。

原子カムの持ちつ持たれつ構造も分かりやすく解説。原発を作るために多くの企業が関わり、その費用を銀行団が用意し、原発は安全だと新聞やテレビに広告を打つ。安全神話のために学者先生に研究費を用意する。監督権限のある通産官僚は天下り先を確保する。（次ページへつづく☞）

原発の仕組み、歴史、福島事故から現在に至るまで、
弁護士視点で語られる日本の原発のすべて。
大きな反響を呼んだ「日本と原発」の続編！

映画 日本と原発 4年後

監督 河合弘之 / 脚本 河合弘之・高瀬雄一
監修 新堀 隆

上映時間 03:19μSv/時
放射線量 0.0319μSv/時
放射線量 5.0μSv/時

大好評だった映画「日本と原発」の続編、
「日本と原発 4年後」(2015年公開)の
自主上映会を川崎市でもおこないます。

7月31日(日) 18:00~(開場 17:45)
8月01日(月) 13:30~(開場 13:15)

会場:高津市民館・大ホール 武蔵溝ノ口駅前、マルイ12階
参加費:500円 前売り券販売中

NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所
電話044-211-0121 (川崎合同法律事務所 担当:田島)
原発ゼロへのカウントダウン in かわさき
電話044-740-0770 (デイサービス長寿の家 担当:かもした)

2日間で300人を超える方々に観ていただき、多くの方から「とても良かった」という声が聞かれました。



新しい話題も豊富です。高浜原発差止仮処分、元東電役員の強制起訴などの司法の問題です。これは国民の多くが原発に反対して、各地でデモや集会や街頭でのピウまきなどで意思を表明していることが司法にも影響を与えています。被曝による甲状腺ガンなど健康への影響、それに近藤駿介氏、木元教子氏ら原発推進派の言い分等も取り上げられています。彼らの発言からは、何故推進したいかが私には理解不能でした。テロや他国からの攻撃に弱い原発、これでアメリカと一緒に戦争をしたら、と思うと身震いしてしまう。この問題は8月10日東京新聞「こちら特報部」で詳しく論じているので参照してください。

原発が及ぼす影響、多岐にわたる問題を、2時間18分で理解できるこの映画は、何度でも見る価値があります。

理事 川口 洋一

はまおか

■ 浜岡原発は大丈夫か？ ■

副理事長・イベント企画チーム 田中 哲男

今年4月に始まった熊本地震は、震度7を2回、震度6強を2回と数える大きな地震であった。10万戸近い家屋が被害を受け交通網は遮断され、水道は断水、電気は停電し、ガス漏れも発生する事態だった。もしもこの時に、現在稼働している川内原発で放射能を大量に漏らすような事故があったらどうなったか考えてみよう。原発事故が起きると5~30km圏は屋内退避が基本となる。電気が止まり、水が止まり、炎天下の中、屋内退避が出来るだろうか？家が壊れ、屋内退避する事が出来ない多くの人々は交通網が遮断された中、被ばくから身を守る手段はあるのか？

これは、遠くの話だったが、明日は我が身かもしれない。緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（通称：SPEEDI）によると、浜岡原発が事故を起こすと6時間ほどで川崎の放射能汚染が始まる。それを止めることが出来るのは、事故が起こってしまう前の段階でしかない。それまでの時間は、どの位残っているのか分からないが、今やらなければならない事はあると思います。

事故が起きる前に何が出来るのか、一緒に学ぶ機会を準備しています。

- 第1回 日時：8月28日（日曜日）18：00～20：30
場所：中原市民館 第3会議室（武蔵小杉駅近く） 定員24名
講師：さくら共同法律事務所 弁護士 甫守（ほもり）一樹さん
学習会：**原発訴訟の基礎講座** ※参加希望者は事前に[メール申し込み必要!](#)
- 第2回 日時：9月11日（日曜日）14：00～16：30
場所：産業振興会館 第6会議室（ラゾーナ裏） 定員32名
講師：浜岡原発永久停止裁判・静岡県会の会 事務局 落合 勝二さん
学習会：**浜岡原発の危険性、神奈川・川崎との関係について**
※参加希望者は事前に[メール申し込み必要!](#)
- 第3回 日時：10月20日（木曜日）10：30～
場所：東京高等裁判所 101号大法廷
内容：**浜岡原発訴訟 口頭弁論 傍聴**



■9/24「おひさまフェス×星空上映会 in かわさき」■

～ 3.11 から、つながる！～

第2回おひさまフェス×星空上映会 in かわさきを成功させよう！と準備をすすめています。今年のタイトルには ～**five years after 3.11**～ とついています。「震災からの復興に心を寄せ、再生可能エネルギーへの関心を高める」ことを目指しています。

出店ブースは昨年の32店舗から37店舗(8月4日現在)に増え、ますます活気ある楽しいイベントになりそうです。

そのなかで新しい出会いがありました。こどもの広場ブースに出てくださいる「マジカルポップン」というグループです。フェイスペインティングでの出店をされるのですが、このグループは3.11津波遺児へのチャリティー活動をしている皆さんです。「山の上の幼稚園に行っていて幼児たちは助かったのだけれど、家族が津波に流されてしまった子ども達を支援しています。子ども達が成人するまで続けたいと思っています。」と話してくださいました。

音楽ステージに出演する「宿河原華匠舞太鼓と仲間たち」は復興支援活動を地道につづけており、2012年から陸前高田を毎年訪問し交流を深めています。今年も8月6日から8日まで現地を訪れ復興住宅前での演奏や市長さんを訪問し懇談などしてきました。

「自然と共に生きる」「市民がつくった電気でお祭り」をテーマに行われるこのイベントは新しいつながりを広げてくれています。当日お会いできるのを楽しみに！！

イベント企画チーム 木下 和枝
(おひさまフェス実行委員会 副委員長)

9/24「おひさまフェス×星空上映会 in かわさき」の

ボランティアスタッフ 大募集～☆

当日はテント・机の設営、車の誘導、プログラム配布などをお願いしたいです。もちろん実行委員も大歓迎！

市民がつくった電気でお祭り!? 多摩川で地域がつながる、人がつながる。

2016年度かわさき市民公益活動助成金事業

おひさまフェス
movie & festival X renewable energy

星空上映会 in かわさき
～ five years after 3.11 ～

2016年9月24日(土) 14:00～19:00
ニヶ谷せせらぎ館下多摩川河川敷広場
JR南武線・小田急線登戸駅より徒歩8分 入場無料(雨天中止)

主催：おひさまフェス×星空上映会inかわさき実行委員会
共催：NPO法人多摩川エコミュージアム
後援：川崎市・川崎市教育委員会
http://ohisamafes.or.jp
お問い合わせ先：090-1804-8559(休)

おひさまフェス×星空上映会 in かわさき、開催宣言!
movie & festival X renewable energy

2015年、私たちは2011年3月の震災・原発事故を大きなきっかけとして川崎を中心に活動する市民団体が集まり、再生可能エネルギーによる音楽と映画上映を柱にした「おひさまフェス×星空上映会inかわさき」を開催しました。約2000人を集めることができた昨年の取り組みをさらに前進させるべく、2016年のおひさまフェス×星空上映会inかわさきは4つの点を目標としてチャレンジしていきます。

- 震災からの復興に心を寄せ、再生可能エネルギーへの関心を高める取り組みに力を入れます。
- 「川崎らしい」多摩川の河川敷を会場に、身近にある自然に親しみ、魅力の再発見につながるきっかけをつくります。
- 子どもたちに残したい自然の素材を使った遊びを経験する環境をつくり、感動する心を育む精神を大事にします。
- 様々な市民団体や個人を問わず、世代を超えた地域のつながりをつくり、「コミュニティ」力の発展・強化につなげていきます。

14:00～ 17:00～19:00ごろ

展示と出店 **映画あらすじ**

おんがく
きたがわてつ 宿河原華匠舞太鼓と大鼓隊仲間たち
「伝説の太鼓」(二宮直人、猪俣誠&弓ノ瀬)ほか

がんばれスイミー
原作：レオ・レオ 脚本：井口雅博
広い広い海の中、サザエんこの周りで小さな魚の兄弟たちが楽しく暮らしていました。みんな赤いのに一匹だけ真っ黒、でも誰にも負けないほど速く泳げました。その名は「スイミー」。ある日、スズメバチを食っていたスイミーは、大きな水槽に突っ込まれてしまいました。驚き逃げ出したスイミーは仲間とくわいて……

つるにのって「とも子の冒険」
原作：ミホ・シボ 脚本・監督：有原純生
主人公は小学6年生の元気な少女とも子。夏休みのある日、とも子は祖母の原簿を盗み去ることにしました。資料館を見学したとも子は、原簿の破損力と恐ろしさに圧倒され、悪い足取りで平和公園の中を歩きます。頭の上に折り紙を掲げた少女の像のところで来たとも子は、色とりどりの折り紙に目をつぼられました。像の前でとも子が祈りを……

子どもひろば
竹組工(ウグイス竹組、竹けんたま) イス作り体験
こども向け防災ワークショップ

食・物・見 など
やきとり、地ビール、ベークド、かき、ケバブ、やきそばなど

東北物産
フリーマーケット
カイロプラティック
健康チェック

electric powered by
NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

参加・出店団体 2016.07.10現在

一般社団法人ピーオーブ / NPO法人WE21ジャパン・たつ / NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所 / NPO法人多摩川エコミュージアム
男の手料理 藤 / カイロプラティックセンター 純江 / 神奈川自治体労働研究所 川崎支所 / 株式会社大塚住居 / 川崎産業生活協同組合
かわさき生活クラブ生活 / 川崎市住宅情報推進委員会 / 川崎市のまちづくりセンター / KUSHIの福祉センター / ケアアビリティセンター
川崎ゼロのフットワークかわさき / SALAM KEBAB / 社会福祉法人社会福祉多摩川福祉工房 / 社会福祉法人はるるの会
宿河原・風流チーム / 鈴木申次郎 / ハーナーチーム・おひさま市民共同かわさきプロジェクト / 高瀬調理製菓会を考える会 / 竹組工同好会
パワーストーン販売委員会 / ベーブルカンパニー / 和野 / 商店 / やるる / こどもぼういず / ワークスコープ / センター事業団 神奈川事業本部

フリーマーケット(出店料無料!)も大募集中



■自己紹介コーナー■ No.23

今月号の自己紹介は、こそぞ！という時にいつも力を発揮してくださる小久保善一さんです。



私は、気象台でお馴染みの埼玉県比企郡「鳩山町」という自然豊かな農村の生まれ、趣味はカメラです。仕事は川崎市役所職員として障害者支援をしてきました。今はフリーの身ですが、神奈川県自治体問題研究所に参加し、川崎支所の活動をしています。

神奈川県自治体問題研究所は、民主的な地方自治の発展をめざし1970年に設立されました。地方自治体に起きている様々な問題を学習し、暮らしやすい自治体にするにはどうしたらよいかを

共に考える場です。住民、自治体職員、地方議員、研究者などが参加し、学習活動や調査研究、提言等を行い、月刊誌「住民と自治」も発行しています。その他、各種講座、セミナー等、会員以外の方も自由に参加できます。

13年には、川崎支所を作ろうと準備会を作り、14年5月にシンポジウム「自然再生エネルギーへ川崎市民の挑戦」を開催しました。この時のパネラーとして原発ゼロ市民共同かわさき発電所の川岸卓哉弁護士さんを依頼したことがきっかけで、かわさき発電所とのお付き合いが始まったという訳です。

シンポジウムを通して「原発は全てを破壊し人間社会には相入れないものであること、自然再生エネルギーこそ、人類が求めるエネルギーであること」を確信しました。

そして川崎で、今その取り組みが川岸弁護士さん達の手により、始まっていることを知り、希望と勇気を与えてくれました。

私は発電所の会員であるが、時々参加しかできず申し訳なく思いますが、3年目を迎えた今、すでに2号機まで完成し、3号機の検討を始めていると聞き、嬉しく思います。また、「川崎地域エネルギー市民協議会の設立」「川崎再生可能エネルギー促進条例案の作成」など市や国に対する働きかけ、イベントと幅広い活動を積極的に行ない、そのエネルギーッシュな活動は「スゴイ！」の一言です。幅広い年齢層の参加で厚みがあり、何より若者が多く参加された取組に夢があります。これからも宜しく願います。

正会員 小久保 善一

でん太通信は毎月15日に発行しています。

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

【編集後記】

浄土から戻ってくる先祖や亡くなった方を供養する「お盆」を大切にしてきた日本人。このように、ほぼ日本全土に共通認識されている行事を綿々とつないでいることに感心する。昔ながらの共通認識を許容できる日本の文化は素晴らしいなあ、と思う。

8/12 に伊方原発が再稼働され、この国の向かう先を憂えるお盆となってしまった。(加藤伸子)

